

静岡県立三島北高等学校 令和7年度 第1回学校運営協議会 議事録

記録者 副校長

- 1 開催日時 令和7年5月31日(土) 9時30分から11時30分まで
- 2 開催場所 静岡県立三島北高等学校 応接室
- 3 出席者 (1)令和7年度 学校運営協議会委員(7名、敬称略)
出席…鎌塚優子、渡邊康男、内田新一、海野祐一、高橋健二
欠席…千葉慎二、土屋賢太郎

(2)学校代表(4名)
出席…松下明子(校長)、勝間田浩文(副校長)、古瀬裕也(教頭)
飯田実(事務長)
- 4 議事(次第)
 - (1) 学校運営協議会委員任命 (任命状手交)
 - (2) 校長挨拶
 - (3) 出席者自己紹介

校内見学(紫苑祭文化の部 一般公開)
 - (4) 学校運営協議会について (副校長)
 - ア 活動についての説明
・「静岡県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則・要綱」より、学校運営協議会の趣旨、3つの機能についての説明。(基本的な方針の承認、学校運営に関する意見の申出、に関する箇所の確認)
・会議の運営、協議結果等の公表についての説明。
 - イ 令和7年度学校運営協議会日程(案) (学校運営協議会日程案を提示)
第1回 令和7年 5月31日(土) 9時30分
第2回 令和7年 11月7日(金) 13時30分
第3回 令和8年 2月6日(金) 13時30分
 - (5) 令和4年度学校経営報告書(自己評価)について(副校長)
 - B評価の箇所を中心に説明
 - エ：・現在の子どもたちは理論や理屈よりも体感や実感的な思考を重視する傾向があり、そういった方向の指導も有効ではないか。
・生徒自身が論理的思考力の向上を判断するのは難しいのではないか。

- ・高校時代に身に付けた英語力や論理的思考力が実社会での実践力につながっているか疑問がある。
- カ：・トラブルの数ではなく内容に着目し、定期的な連絡や報告会で対応や支援を話し合うことが重要
 - ・学校内は安全でも社会に出ると犯罪に巻き込まれることがある。
 - ・ヘルメットの着用率が低い。改善策やアイデアが必要。
 - ・安全安心な学校づくりのために常に緊張感を持って取り組むことが大切である。
- キ：・教員の心身の健康やハラスメントの有無が気になる。
 - ・働き方改革は学校だけでは解決できない難しい課題である。

(6) 令和7年度学校経営計画について（校長）

基本方針 令和七年度の学校経営計画は、生徒の基本的習慣の確立、人間性の向上、学力の向上、探究的な学びの広がりを重視していきます。

家庭学習 課題内容の検討と目標値の変更。自ら学習に取り組む姿勢を育成。

探究学習 昨年度から県の「行きたい学校づくり推進事業」を進め、探究学習の地区拠点校として活動しています。三島田形地区の学校で協議会を年に3回行う予定。各高校の教員が互いに協力できる体制（データベースの構築）を整えていきます。将来的には大学の先生方や企業の方々にも参加していただき、地区の探究学習コンソーシアムを構築していきます。

地域との関わり

昨年度から三菱みらいの助成金を受け、そこでの探究学習に関するアンケートを実施しました。結果として、生徒の地域との関わりに対する意識が低いことが判明しました。グローバルで学んだものをローカルに戻すことを進めていきたいと考えています。

ボランティア活動を部活動単位で実施し、生徒に地域との関わりを意識させる項目を追加しました。

安全・安心な学校環境

学校が安全で安心であることを重視し、設備面や人的な部分、教職員のコンプライアンス、働き方についても力を入れていきます。

報告後、令和7年度学校経営計画を承認していただいた。

(7) 学校の近況報告（教頭 副校長）

4月からの生徒の様子及び部活動の試合結果、昨年度卒業生の進路概況についての報告

(8) 意見交換

- ・県の「教育行政の基本方針」に載っているコトバを入れるとよい。ウェルビーイング、起業家育成、地域の拠点校等
- ・地域とのかかわり意識が低い→意識は説明の仕方が変わる。新しいことをやると忙しくなる。今やっていることの見せ方、説明の仕方を考えるほうがよい。
- ・思考ツールについては人間は物語で動く。事実の羅列ではなく、自分なりのストーリーで語れるよ

うになるとよい。そのためにも思考ツールの活用を考えたほうが良い。

- ・生徒は生き生きとやっている
- ・生徒のためにといろいろやると、教員の負担は増える。バランスが大事。みんなで分ける、外部の利用

- ・子どもたちが生き生きとしていた
- ・丹那トンネルを説明した生徒 多分ふだんはおとなしいが 自分の興味のあることで熱心に調べ、説明していた。自分の興味のあることだと表現力も伸びる。そのためには基礎が必要

- ・三嶋大祭りのあとに絵画コンクールがある。美術部 立派な作品が多かった。個々の技術を伸ばそうとしている教育

- ・生徒の眼がキラキラして生き生きしていた
- ・文芸部の冊子 思春期の みずみずしくて、その中に葛藤、揺れ動く感性が世の中を変える
- ・大学生を見ると、高校で何をやったか（どこの高校か）で大きく変わってきていることがわかる。
- ・チームで協働してが求められる。丹那の説明をした生徒が「自分だけの力ではなく、後輩が…」 一人の力ではなく、他者のおかげでと言えることが素晴らしかった。
- ・働き方改革ではどこかに負担が集中していないか 数値化できるとよい